

# 地震による揺れの被害について

### 地震の震度

震度と被害の関連をまとめた下の「気象庁震度階級関連解説表（一部抜粋）」を参考に、表示された震度に対して実際にどのような被害が発生しうかが、自分の家は安全か確かめてみましょう。

**震度0** 0~0.4  
地震計のみに表れ、人は揺れを感じない。

**震度1** 0.5~1.4  
敏感な人や静止している人がわずかな揺れを感じる。

**震度2** 1.5~2.4  
屋内にいる人の多くが揺れを感じる。電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。

**震度3** 2.5~3.4  
屋内にいる人のほとんどが、揺れを感じる。棚にある食器類が、音を立てることがある。

**震度4** 3.5~4.4  
かなりの恐怖感があり、一部の人は、身の安全を図ろうとする。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。

**震度5弱** 4.5~4.9  
多くの人が身の安全を図ろうとする。つり下げた物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。

**震度5強** 5.0~5.4  
多くの人が、行動に支障を感じる。変形によりドアが開かなくなることがある。

**震度6弱** 5.5~5.9  
立っていることが困難になる。かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損し、落下する。

**震度6強** 6.0~6.4  
立っていることができず、はわないと動くことができない。

**震度7** 6.5~  
耐震性の高い建物でも傾いたり、大きく破損するものがある。

左の数値：気象庁震度階級 右の数値：計測震度(地震情報などにより発表される震度階級は、観測における揺れの強さを数値化した計測震度から換算されるものです。)

# 地震災害に備えて

<b>わが家の耐震診断</b> 家の開きから、ガスや電気のブレーカーなどの位置を把握。家屋の耐震診断は専門家に相談し、補強等を実施しましょう。	<b>ブロック塀の点検</b> ひび割れや壊れているところはないか確認。特に通学路、避難路に面している所はしっかり補強しましょう。	<b>家具の転倒防止</b> 寝室、居間、幼児がいる部屋にはできるだけ家具は置かない。家具や屋外のガスボンベは、壁などにしっかり固定しましょう。
<b>家族で話し合い</b> 家族の役割分担や集合場所を決め、はくられた時の落ち合う場所を決めましょう。	<b>食料の備蓄</b> 普段から非常食3日分を含む7日分程度の食料を準備しておきましょう。食料品の点検、入れ替えを忘れずに。	<b>飲料水の備蓄</b> 飲料水は1人1日3リットルの水を最低3日分用意しましょう。その他、いつも浴そうに水をはっておきましょう。

# 地震が起きたら

<b>屋内にいたら...</b>	<b>家の中</b> 家具やテレビなどが倒れたり、ガラスが割れたりします。 対処法 ●机の下にもぐり(頭を守る) ●素足で歩かない ●可能であれば火を消す	<b>デパート・スーパー</b> 商品などの転倒、照明や天井材が落下する可能性があります。 対処法 ●商品棚から離れる ●異物やゴミをかぶり頭を守る ●店員の指示に従う	<b>学校・勤め先</b> 机や書棚などが動き、倒れ、物が散乱します。 対処法 ●机の下にもぐり(頭を守る) ●ロッカーの扉やOA機器・書類の落下に注意	<b>集合住宅・個室</b> ドアが開かなくなることがあります。 対処法 ●ドアを開けて避難口を確認 ●エレベーターは使用せず階段を使って避難
<b>屋外にいたら...</b>	<b>路上</b> ブロック塀や自動販売機が倒れ、看板やガラスが落下する可能性があります。 対処法 ●ブロック塀や自動販売機に近づかない ●カバンなどで頭を保護	<b>車の運転中</b> パンクしたような感じになり、ハンドルをとられ運転が困難になります。 対処法 ●車を左に寄せて停止 ●ドアはロックせず ●キーはつけたままで避難	<b>バスや電車の車内</b> 急ブレーキや脱線の可能性があります。 対処法 ●手すりやリヤ革にしっかりつかまる ●乗務員の指示に従う	<b>海や山</b> 海岸では津波が押し寄せ、山では地盤が崩れやすくなります。 対処法 ●海岸から離れ ●安全な高台に避難する ●斜面の崩れかたや状況を確認しながら避難する

# 津波に対する心得

**津波への心構え**

**津波は繰り返して来る!**  
津波は繰り返し襲ってきます。波が落ち着くまでは避難していきましょう。

**引き潮がなくても注意!**  
津波の前に引き潮が必ずあるとは限りません。地震の起こり方によっては引き潮が起らない場合もあります。

**津波のスピードは速い!**  
「注意報」や「警報」が出る前に来る津波もあります。直ちに避難しましょう。

**満潮時は要注意!**  
水位が高くなっているため、津波がより大きくなります。

**待ち合わせはしない!**  
周りに避難を呼びかけ手助けしながら、まず自分が避難。

**高い場所に避難する**  
海岸から「より高く」ではなく、「より高い」場所へ避難しましょう。その際、原則として車は使わないようにしましょう。

**小さな揺れでも油断禁物**  
小さな揺れでも、揺れがなくても津波の可能性がります。

**海岸・河川に近づかない**  
注意報、警報が解除されるまで海辺や河川には近づかない。

**注意報・警報が出たら**  
家族や近所に知らせ、急いで高台に避難して、警報が解除されるまで戻らないようにしましょう。

# 災害時要援護者

市では、平成22年3月に「秋田市災害時要援護者の避難支援プラン」を策定し、災害時の避難に手助けが必要な(災害時要援護者)も無事に避難できる地域づくりを支援しています。

**災害時要援護者(避難支援対象者)とは**  
高齢者や障がい者、難病患者、妊婦、乳幼児など、災害情報の入手や避難に助けが必要な方です。

**「避難支援対象者名簿」に登録しましょう**  
避難支援が必要な方は名簿に登録をお願いします。災害時に家族だけでは避難することができない、又は家族などの支援を受けられない状況にあるかたを、市が作成する「避難支援対象者名簿」に登録しています。登録については、同意書の提出が必要ですので、民生委員が地域福祉推進室(電話888-5661、ファクス888-5658)へご連絡ください。

**地域に名簿等を提供しています**  
登録していただいた災害時要援護者の名簿(避難支援対象者名簿)を地域に提供し、支援体制づくりを進めています。また、秋田市災害対策基本条例に基づき、市と地域で覚書を取り交わした上で、特に支援が必要な方の情報(住所・氏名・年齢・性別)をお住まいの地区の町内会長、自主防災組織の代表、民生委員にお知らせしています。

**地域で名簿を活用して取り組みましょう**  
市から情報提供された「避難支援対象者名簿」を活用し、支援者や緊急時の動きを決めておくなど、災害時に手助けが必要な方の支援体制づくりを進め、地域の防災力を高めていきましょう。

**実際の災害発生時の対応**  
高齢者・障がい者・傷病者・妊産婦・乳幼児・児童など、災害時に正確・迅速な行動をとりにくい方たち(災害時要援護者)を災害から守るために、みなさんと協力できるようにしましょう。

<b>高齢者や病人</b> 複数の介助者で対応しましょう。急を要するときは、ひもなどを使って背負い、安全な場所へ避難しましょう。	<b>肢体の不自由な人</b> それぞれの人に適切な誘導方法を確認しましょう。車椅子の場合は、階段では必ず3人で協力します。上がるときは前向きに、下るときは後ろ向きにして恐怖感を与えないように配慮しましょう。
<b>目の不自由な人</b> 「お手伝いしましょうか」などと、まず声をかけます。話かけるときは、はっきりゆっくり、大きな声で。誘導するときは、杖を持っていない方のひじのあたりを軽く触れるか、腕を貫して、半歩前くらいをゆっくり歩きましょう。	<b>耳の不自由な人</b> 話すときは、近くまで寄って相手にまっすぐ顔を向け、口を大きくはきり動かしましょう。口頭でわからないようであれば、紙とペンで筆談しましょう。紙やペンがなければ、相手の手のひらに指先で字を書いて筆談します。

# 大雨時の避難の心得

**1時間雨量による雨と被害の目安**

<b>やや強い雨</b> (10~20mm) ザーザーと降る雨。地面いちめんに水たまりができます。長く続く場合は注意が必要です。	<b>強い雨</b> (20~30mm) どしゃ降り。側溝や下水があふれ、小川のはん濫、崖崩れの心配もあります。	<b>激しい雨</b> (30~50mm) バケツをひっくり返したような激しい雨。道路が川のようになり、規制も行われます。	<b>非常に激しい雨</b> (50~80mm) 滝のように降り、地下に雨水が流れ込む場合や土石流も発生しやすくなっています。	<b>猛烈な雨</b> (80mm以上) 息苦しくなるような圧迫感があり、雨による大規模災害が発生するおそれがあります。
---	---	--	--	---

<b>避難の呼びかけに注意を</b> 危険が迫ったときは、役所や消防団から避難の呼びかけをすることがあります。呼びかけがあった場合には、速やかに避難してください。	<b>速やかに避難しましょう</b> 避難勧告などは、危険が迫ったときにかけられるので、速やかに避難しましょう。避難の際には警察などの指示に従いましょう。
<b>避難する前に</b> 避難する前に、電気・ガスなどの火元を消し、避難所を確認しましょう。また、親戚や知人などに避難する旨を連絡しておきましょう。	<b>動きやすい格好、2人以上での避難</b> 避難するときは、動きやすい格好で、2人以上での避難を心がけましょう。
<b>高い道路を通りましょう</b> 避難にはできるだけ高い道路を選び、浸水箇所があった場合は、溝や水路に十分注意しましょう。また、げけなどでは土砂災害に注意しましょう。	<b>万が一、逃げ遅れたときには</b> 万が一避難が遅れ、危険が迫ったときは、近くの丈夫な建物の2階以上に逃げましょう。
<b>車での避難は控えて</b> 車での避難は緊急車両の通行の妨げになります。また、交通渋滞をまねき、浸水すると動きにくくなるので、特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。	<b>車を放置しない</b> 水防活動の妨げになりますので、自動車を堤防や道路に放置しないようにしましょう。

# 大雨時、降雨後の土砂災害に対する心得

**大雨時、降雨後の土砂災害に対する心得**

**雨に注意しましょう**  
土砂災害の多くは雨が原因で起こります。1時間雨量が20mm以上、また降る地域からの50%以上の降雨間隔になったら、十分な注意が必要です。

**逃げ方を覚えましょう**  
土砂災害警戒区域等について  
降雨時に注意報が発せられた時は、早めに避難(傾斜地に近づかない)  
避難場所や避難経路の確認など、日頃から事前準備を行う

**こんな前ぶれ現象に注意**  
次のような現象を察知した場合は、土砂災害が直後に起こる可能性があります。直ちに周りの人と安全な場所へ避難するとともに、関係機関へ通報してください。

**時間的切迫性**

<b>土石流</b> 山や川の石や土砂が、大雨などにより水と一緒に激しく流れ下る現象。
<b>地すべり</b> 雨や雪どけ水が地下にしみこみ、断続的に斜面が滑り出す現象。 ※地すべりの予兆は長期間にわたって発生しているため、注意しなくてはならない。
<b>かけ崩れ</b> 雨や雪どけ水、地震などの影響によって、急激に斜面が崩れ落ちる現象。

一般的に土砂災害は、降雨や融雪で地中の水分が増して地盤が緩み、さらに長雨や強雨が続いたときに発生するとされています。土砂災害の要因となる降雨について、常日頃から注意しておく必要があります。

# 特別警報

気象庁では、大規模な災害の発生が切迫していることを伝えるために、新たに平成25年8月から「特別警報」が創設されました。

**普段からの備えと早め早めの行動があなたや身近な人の命を守ります**  
⇒災害から身を守るために(大雨の場合)⇐

**普段から...**  
大雨になるおそれ雨が降り出す  
気象情報・空の変化に注意  
Point  
備えは大丈夫?  
・より低い場所など、危険箇所を把握  
・避難場所や避難ルートを確認しておく

**雨が強くなると...**  
雨が強くなると...  
最新の情報に注意して、災害に備えた早めの準備を雨・風の影響を受けやすい地区・避難困難者は早めの行動!

**注意報**  
大雨が降り続けると...  
自治体が発する避難に関する情報に注意し、必要に応じ速やかに避難  
Point  
特別警報が発表されていなくても早め早めの行動を!

**警報**  
さらに激しい大雨が続くと...  
ただちに命を守る行動をとる  
市町村からの避難勧告等に従い直ちに避難所に避難!外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所に移動  
Point  
冷静な判断が大事です!周囲の状況に応じた行動を!

**非常事態**  
特別警報

**特別警報**  
「(住居の位置)や(住居の構造)」「浸水が生じている状況なのか」によって「自宅外避難」の必要性は異なりますので、冷静な判断が重要です。災害から命を守ることができる行動を考えておきましょう。  
Point  
冷静な判断が大事です!周囲の状況に応じた行動を!

# 家庭用備蓄品と防災メモ

**家庭での備蓄**  
万一の際に備えて、家庭では次のようなものを準備し、定期的にチェックしておきましょう。

**※各家庭に必要な品目例**

<input type="checkbox"/> 食料・水 (3日以上分の備蓄) <input type="checkbox"/> 消火器等の消火用具 <input type="checkbox"/> 懐中電灯等の照明用品 <input type="checkbox"/> ラジオ等の情報収集用品 <input type="checkbox"/> のこぎり、パル等の救助用具 <input type="checkbox"/> 救急医療セット等の医療用品 <input type="checkbox"/> 緊急用トイレ <input type="checkbox"/> 簡易トイレ <input type="checkbox"/> 毛布等の生活用品	<input type="checkbox"/> 携帯ナイフ <input type="checkbox"/> メガネ (老眼鏡) <input type="checkbox"/> 常備薬等 <input type="checkbox"/> 折りたたみマット <input type="checkbox"/> 簡易ベッド <input type="checkbox"/> 簡易トイレ <input type="checkbox"/> 簡易トイレ <input type="checkbox"/> 簡易トイレ
---	--

**家庭の実情に応じた品目：参考例**

例1:雄物川水害	〇〇避難場所	樽川水位観測所	避難判断水位 8.00m
例2:土砂災害	〇〇避難場所	前兆現象の確認 気象庁 土砂災害警戒判定メッシュ情報 秋田県 土砂災害警戒情報システム	前兆現象の発生 土砂災害警戒情報発表

**防災メモ(災害・避難カード)**  
自分にとって「命を脅かす危険性」に何があるか確認し、災害種別毎にどう行動するのか決めておきましょう。防災マップやハザードマップなどを参考にしましょう。

**避難が必要となる災害と避難方法等**

災害例:水害・土砂災害・地震(津波)

災害	避難行動	注視する情報	危険な状況
例1:雄物川水害	〇〇避難場所	樽川水位観測所	避難判断水位 8.00m
例2:土砂災害	〇〇避難場所	前兆現象の確認 気象庁 土砂災害警戒判定メッシュ情報 秋田県 土砂災害警戒情報システム	前兆現象の発生 土砂災害警戒情報発表

※避難行動には、自宅の2階など建物内の安全な場所での待避を含みます。ただし、土砂災害及び津波災害は立ち退き避難が原則です。

**家族の集合場所**  
例:〇〇避難場所、親戚〇〇宅

**緊急連絡先**  
例:災害用伝言ダイヤル171、親戚〇〇宅への連絡